

家畜排せつ物の利用の促進を図るための
基本方針を見直すための意見交換会

第1回：令和6年6月18日開催

「悪臭に関する現状と課題点」

公益社団法人 におい・かおり環境協会 重岡久美子

目 次

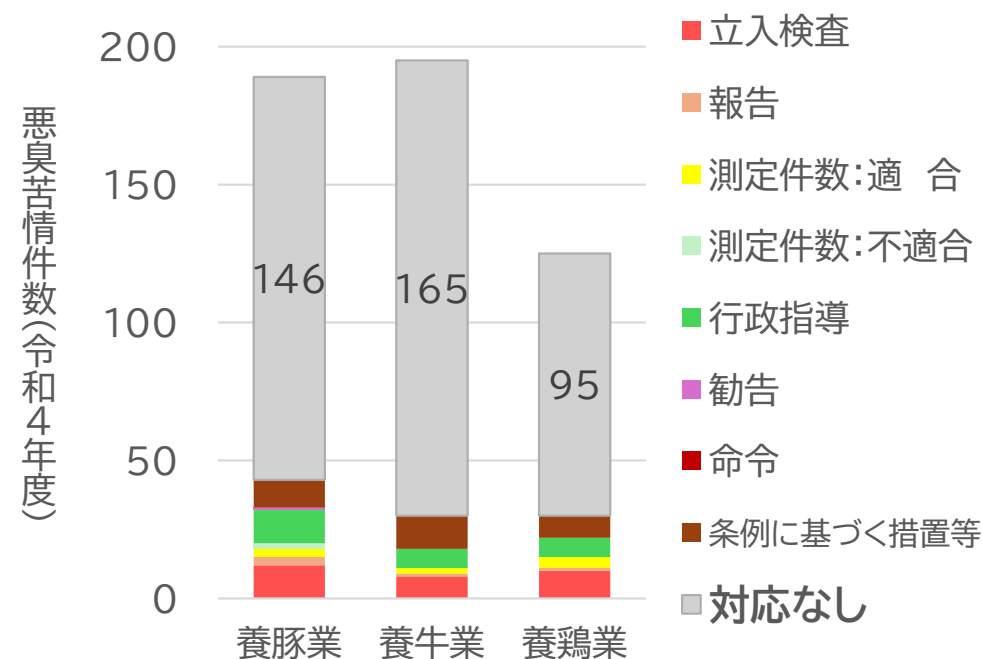
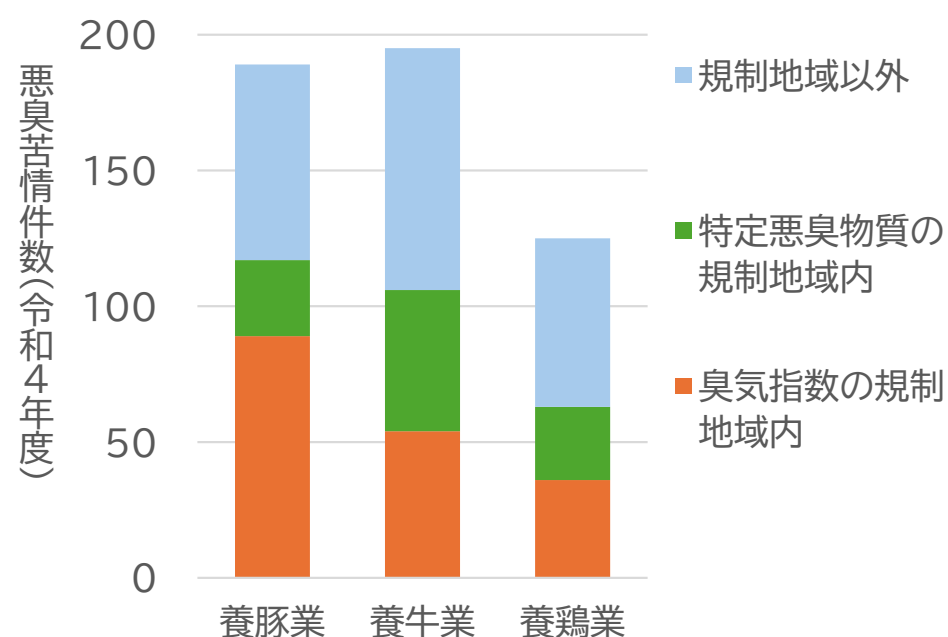
1. 悪臭苦情の現状
2. 養牛業の臭気対策の課題点
3. 養豚の臭気対策の課題点
4. 脱臭対策の現状

1. 悪臭苦情の現状

令和4年度悪臭防止法施行状況調査結果によると、畜産農業は約1000件の苦情が発生している。悪臭に係る規制には特定悪臭物質濃度の規制と臭気指数規制に大別され、住宅が多い地域では臭気指数規制が多い傾向にある。

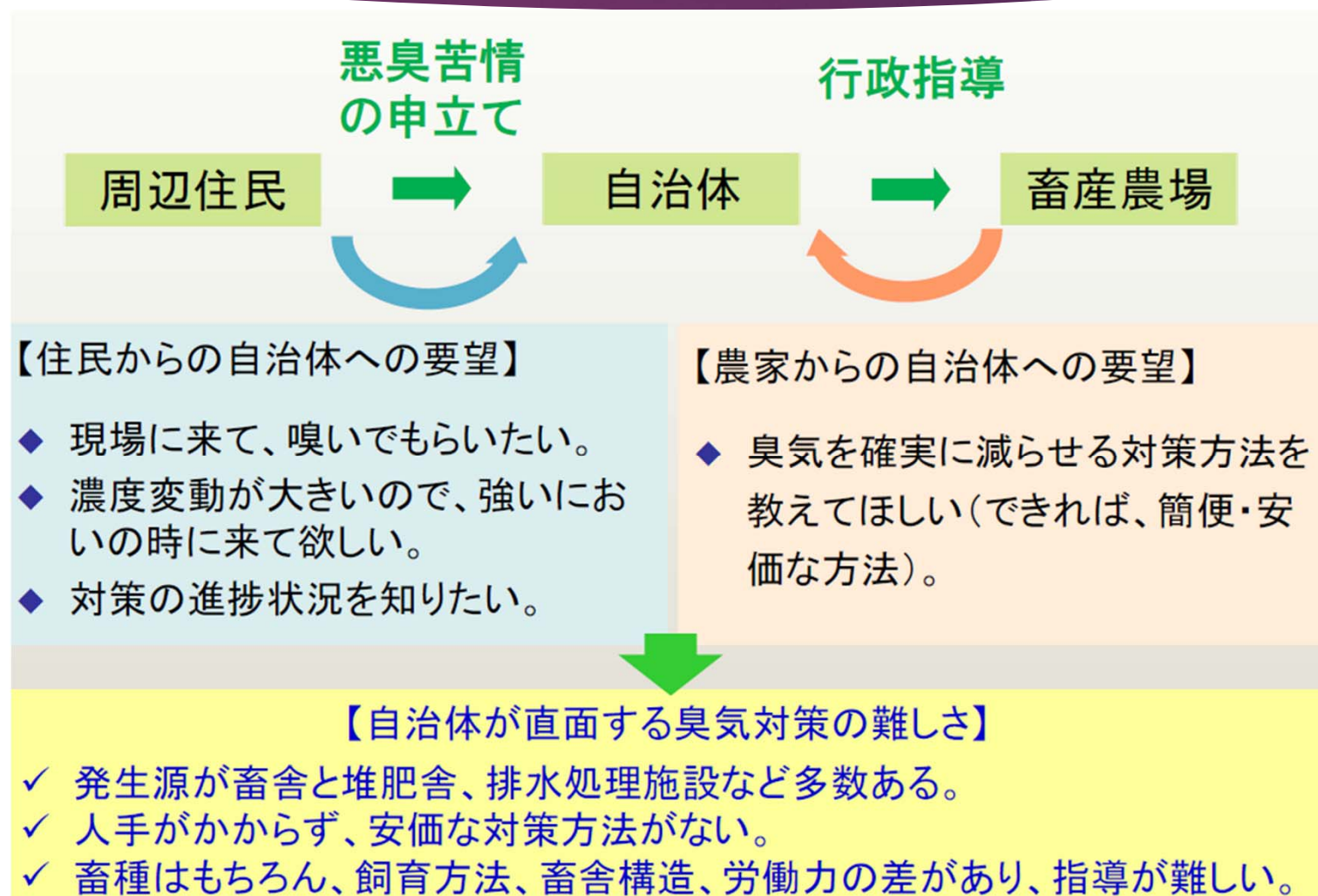
畜産業にかかる悪臭苦情がどのような地域で発生しているのかをみると、規制地域外で発生していく苦情が最も多いものの、臭気指数規制を導入しているような都市部で苦情が多い。農村地域の都市化による住宅の近接化が悪臭苦情が減らない要因になっている。

悪臭苦情として住民が市役所等に申し立てられた後の自治体の対応をみると、8割の苦情に対して行政指導が実施されていない。現地で臭気が確認できないことや防疫上立入ができない可能性も考えられる。



1. 悪臭苦情の現状

悪臭苦情があっても行政指導が進まない要因として、臭気発生源の特定が難しいこと、手間がかからず安価な脱臭対策がないこと、農家によって条件が異なることがある。



においを出さない工夫

臭気対策は、発生後のにおいを処理するより、臭気発生を抑えることが重要となる。

まずは、においを発生させない工夫

○畜舎由来のにおい

- ・ 清掃してふん尿の早期分離と搬出
- ・ 敷料による水分および臭気の吸着

○堆肥舎由来のにおい

- ・ 好気性となる発酵条件に保つ(含水率や通気量)
- ・ 発酵に必要な期間を堆積する

それでもダメなら・・・脱臭装置の導入

- ✓ 主に捕集しやすい堆肥化施設などに適用できる。
- ✓ ウインドレスならば畜舎にも適用できる。
- ✓ 開放型の畜舎には芳香剤の噴霧が適用できる。

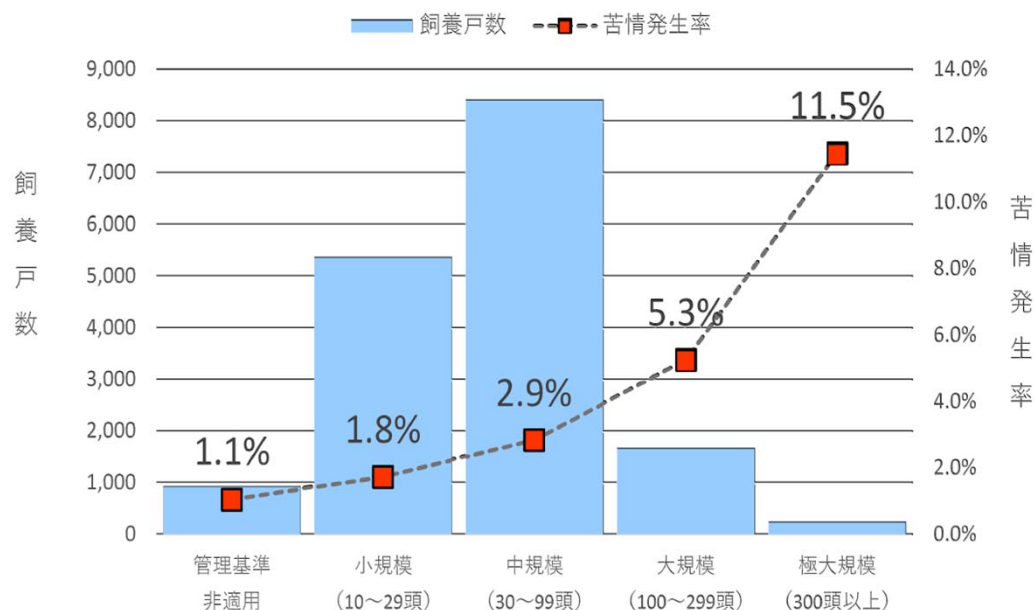
2. 養牛業の臭気対策の課題点

牛の飼育頭数が多い程、悪臭苦情が発生している。

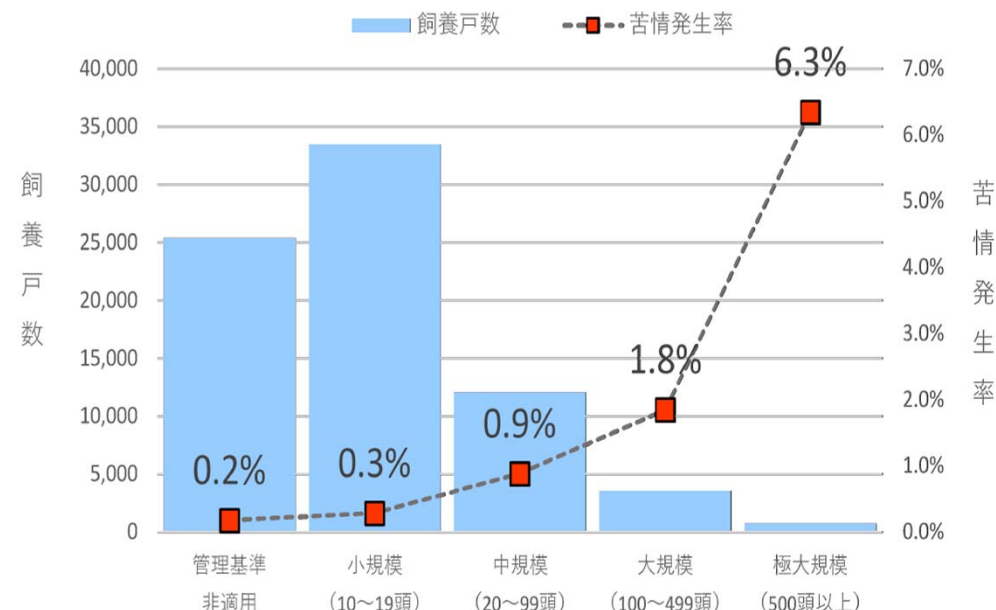
乳用牛は300頭以上を飼育している超
大規模農家で、悪臭苦情が急増している。

肉用牛は500頭以上を飼育している超
大規模農家で、悪臭苦情が急増している。

乳用牛（成牛頭数）



肉用牛（総頭数）



2. 養牛業の臭気対策の課題点

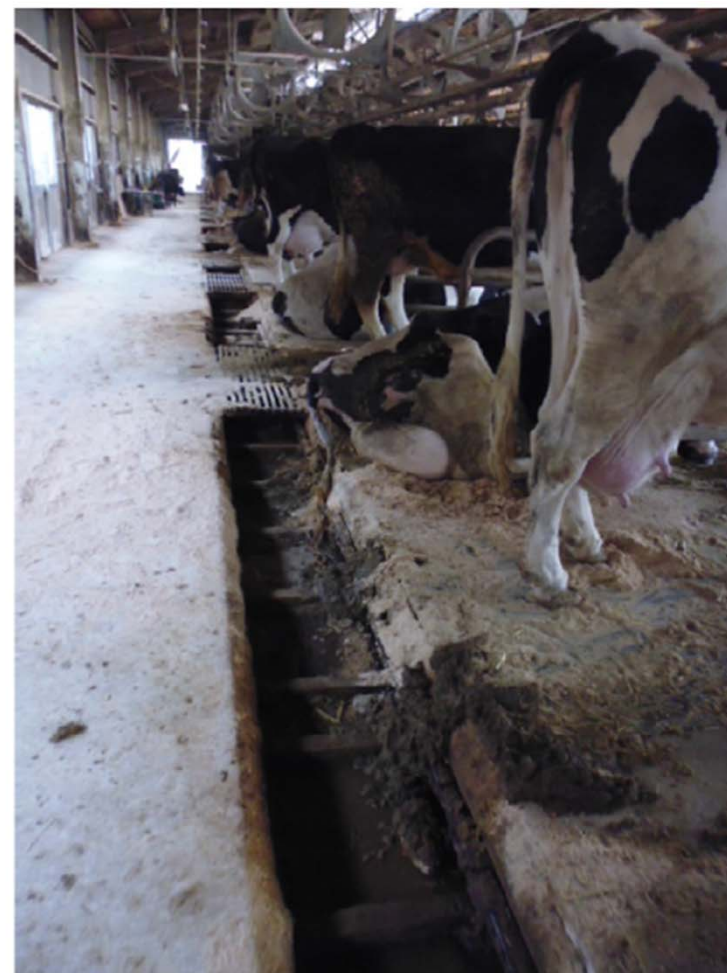
乳用牛の飼育頭数によって、主に畜舎構造が3パターンに分かれる
なお、肉用牛の多くは、開放牛舎で飼育されている。

- つなぎ飼いは、飼育頭数も少なくバークリーナーでふん尿をかき集めやすいため、比較的においが少ない。
- フリーバーンは、一般的にフリーストールより敷料が多いため、臭気が弱い。

つなぎ飼い	フリーバーン	フリーストール
バークリーナーで2回/日清掃	牛舎敷料を1回/日清掃	通路はホイールローダー等、ストール部分は手作業で1～2回/日清掃
		

2. 養牛業の臭気対策の課題点

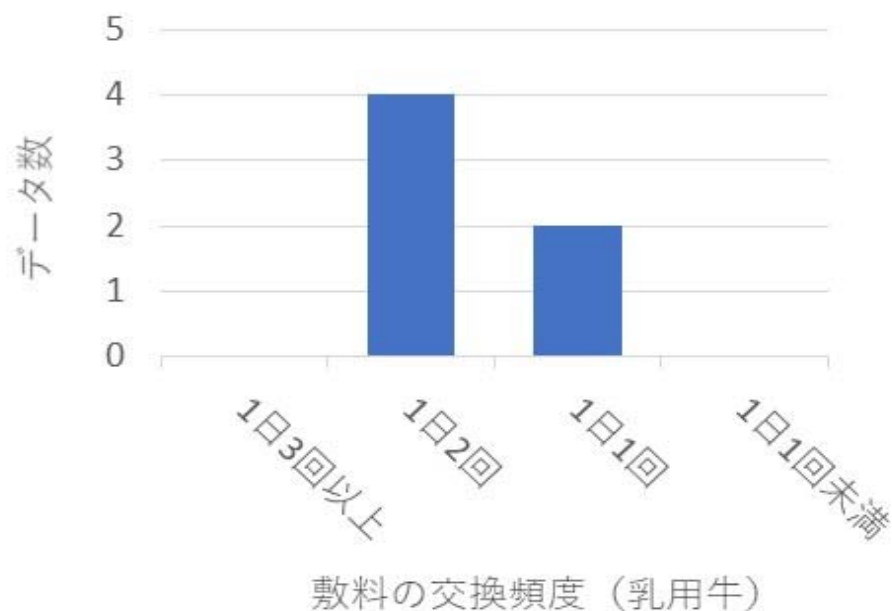
つなぎ飼いの牛舎で、バークリーナーに蓋があると、牛が蓋の上で排便するため、周囲が汚れにくい。バークリーナーに蓋がないと牛ふんで汚れやすい



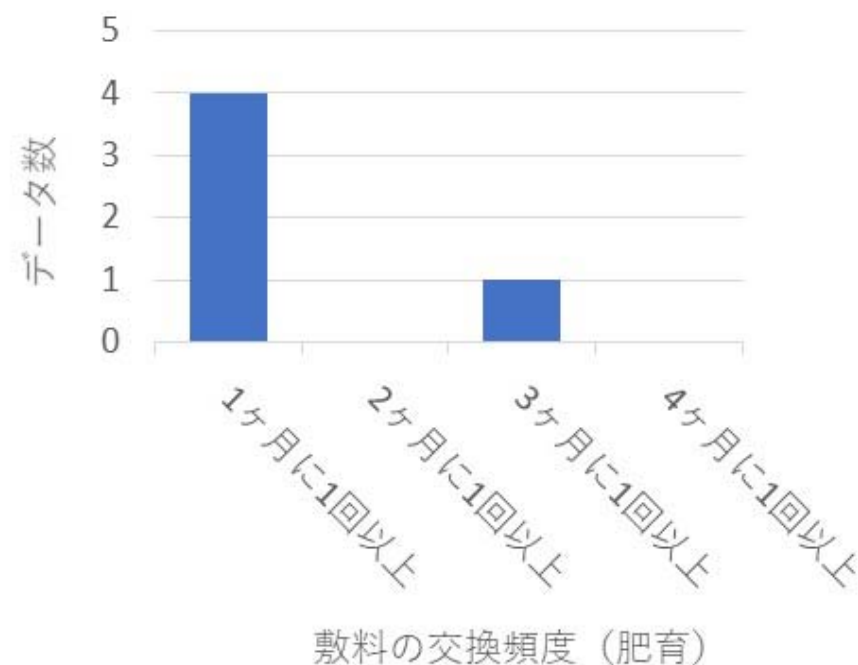
2. 養牛業の臭気対策の課題点

おが粉が不足していることから、敷料の確保が難しい農家が多い。

悪臭苦情が発生していない優良な酪農家では、牛1頭につき $1.5\text{m}^3/\text{月}$ ($18\text{m}^3/\text{年}$)の敷料を用意し、1日に1回以上交換することが多い。



優良な肥育農家は、牛1頭につき $0.5\text{m}^3/\text{月}$ ($6\text{m}^3/\text{年}$)の敷料を用意し、1ヶ月に1回以上交換していることが多い。



臭気対策が優良な農家の事例

3. 養豚業の臭気対策の課題点

豚舎の臭気対策は清掃が重要となる。

